

大阪湾再生行動計画(第二期) (案)

【概要版】

平成26年5月
大阪湾再生推進会議

①大阪湾の特性

- 2箇所の湾口(明石海峡(4km)、紀淡海峡(7km))を持つ閉鎖性の高い海域(海域面積:1,450km²、平均水深28m)
- 大きな人口・産業集積を有する集水域を抱える(集水面積11,200km²、人口1,745万人)

➡ 陸域から大量の汚濁負荷が流入するとともに、外海との海水交換が起こりにくいため、富栄養化による水質の悪化や、生物生息環境の悪化が生じやすい。



集水域界
大阪湾とその集水域

②第一期計画の評価と課題

【最終評価(総括)】

- 湾口部～湾央部は、水質改善が進んでいるが、栄養塩不足の声もあり。
- 湾奥部は、汚濁の改善がみられず、貧酸素状態もみられる。
- 施策の効果とみられる変化あり。(汚濁物質濃度の減少、再生された干潟等での生物生息など)
- 森・川・海の住民参画による取り組みへの参加者が増加するとともに、環境にふれあう場が拡大。

【課題】

- (1) 多様な生物の生息・生育
 - 特に湾奥部において、底層DO改善のための取り組みの強力な推進が必要。
 - 生物の生息・生育場については、今後とも積極的な整備を進めていくことが望ましい。
- (2) 人と海との関わり
 - 特に湾奥部において、水質改善のための取り組みの推進が必要。
 - 親水活動の場については、今後とも積極的な整備の推進が望ましい。
 - 浮遊・漂着・海底ごみについても、今後とも積極的な取り組みの推進が望ましい。

①理念

- 大阪湾の環境の改善(多様な生物の生息・生育、人と海との関わりの増大)に向けて、多様な主体の連携・参画(空間ネットワーク及び人的ネットワークの充実・強化)により、森・川・海の取り組みの輪を広げ、効率的・効果的な取り組みの推進を図り、大阪湾の再生とともに新しい大阪湾の創出を目指す。

②意義

- (1)多様な生物の生息・生育(生物多様性、生産性の確保)
- (2)人と海との関わりの増大(人材の育成、生活の質の向上、観光資源の創出)
- (3)空間(森・川・海等)ネットワーク及び人的(多様な主体、各世代のつながり)ネットワークの充実・強化

③目標

森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな「魚庭(なにわ)の海」を回復し、市民が誇りうる「大阪湾」を創出する

④計画期間

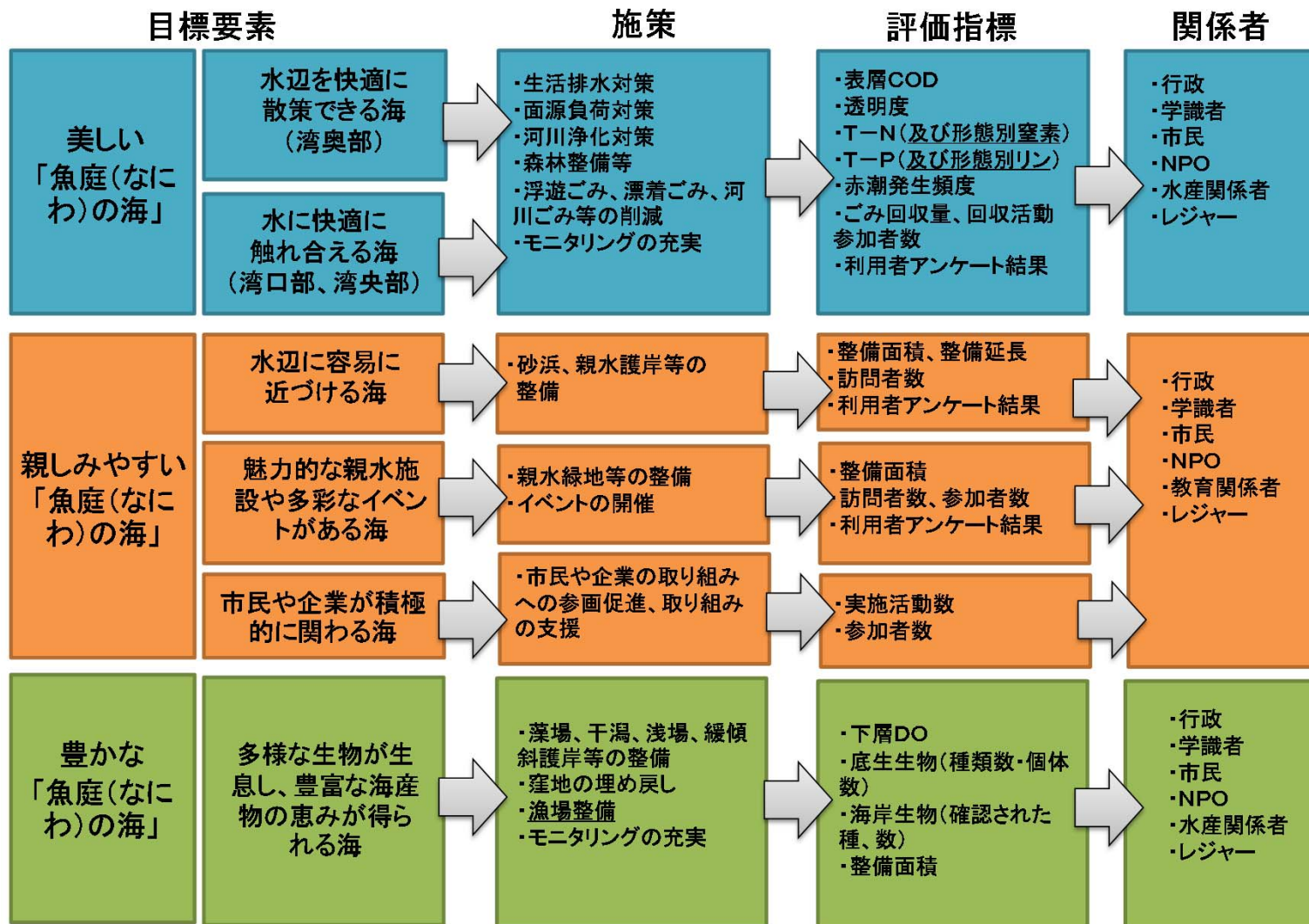
- 平成26年度から平成35年度までの10年間

⑤取り組み体制

- 大阪湾再生推進会議において策定・推進する。
- 推進会議には幹事会を置き、幹事会にはワーキンググループ(陸域、海域、モニタリング、全体)を置く。

⑥目標達成状況の評価について

- 目標を3つの目標要素に区分し、それぞれの目標要素を達成するための施策、施策の達成状況の評価するための評価指標、及び関係者を設定する。
- 目標達成状況は、評価指標の経年的な変化等で評価し、順応的に進捗状況を管理する。

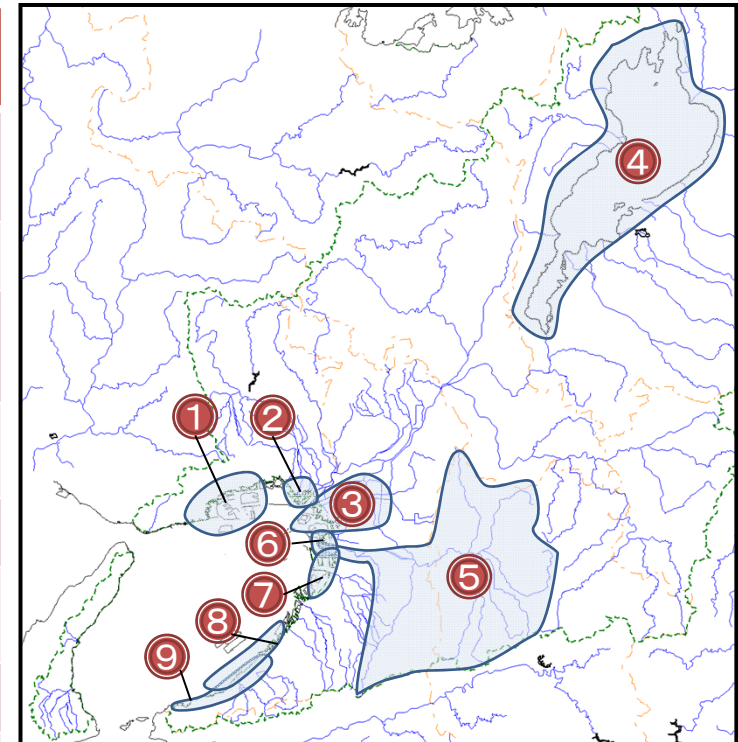


※下線は第一期計画から追加された施策、評価指標

⑦アピールポイントについて

- 多くの人が訪れ、見て・遊んで・食べて・学ぶことにより、大阪湾や大阪湾につながる森や川についての理解を深められる場所を「アピールポイント」として設定し、情報を発信する。
- アピールポイントは、「たのしい出会いと発見」があり、見て・遊んで・食べて・学び、森・川・海でつながる大阪湾の水環境を感じられる場所を目指し、訪問者数、イベント開催回数、イベント参加者数等による評価を行う。
- アピールポイント及びアピールポイントに含まれるエリアについては、利用状況や整備状況等に応じ、適宜追加等の見直しを行う。

No.	アピールポイント	アピールポイントに含まれるエリア
①	潮風かおる港町神戸	須磨海岸、兵庫運河、ハーバーランド～HAT神戸、ポートアイランド、神戸空港
②	水に親しみ学べる尼崎の海辺	尼崎運河周辺
③	まちなかで水に親しめる水都大阪の水辺・海辺	中之島、舞洲～夢洲、新島、咲洲
④	豊かな自然と歴史を感じられる琵琶湖	琵琶湖
⑤	市民が参加した川づくりが進む大和川	佐保川
⑥	海に親しめる多様な場がある堺の海辺	堺浜、堺旧港
⑦	海の恵みを楽しめる堺・高石の漁港	堺(出島)漁港、高石漁港
⑧	海水浴やマリンレジャーが楽しめる阪南・泉南の海岸	二色の浜、せんなん里海公園
⑨	海の恵みを楽しめる泉南の漁港	泉佐野漁港、田尻漁港、岡田浦漁港、深日漁港、小島漁港



アピールポイントの位置図

美しい「魚庭(なにわ)の海」

①生活排水対策

- 汚濁負荷量の総量削減
- 下水道事業(中小市町村での普及促進、高度処理の取り組み、合流式下水道改善等)
- 農業集落排水事業
- 浄化槽事業
- 中小河川流域等における市民、NPO、企業等の参画による負荷削減対策 など



中小市町村での下水道普及促進の例

合流式下水道改善の例(雨水沈殿池)



「大和川水質改善強化月間」のチラシ

②面源負荷対策

- 雨天時における市街地からの汚濁負荷対策
- 農業排水対策 など

③河川浄化対策

- 河川浄化施設による浄化
- 河川や湖沼の浄化浚渫や覆土による有機汚泥対策 など

④森林整備等

- 多様な森林整備(適切な間伐の実施、複層林の造成など)
- 市民、NPO、企業等の参画・連携による森林整備活動の拡大
- 公共工事での間伐材の利用促進

⑤浮遊ごみ、漂着ごみ、河川ごみ等の削減

- 流域住民、市民、NPO、企業等の参画・連携によるごみ回収活動の実施、支援、啓発活動など
- 効率的・効果的な浮遊ごみ回収のためのごみの挙動解析の推進

⑥モニタリングの充実

- 水質・流況の自動観測等の継続及びデータを活用した大阪湾の水質改善の検討
- 企業、研究機関、市民等が参加したモニタリングの推進
- 大阪湾の環境情報の発信・共有化
- 産民官学の連携強化 など

⑦その他

- 河川底質のダイオキシン類対策
- 河川における親水空間の整備

親しみやすい「魚庭(なにわ)の海」

①砂浜、親水護岸等の整備

- 湾奥部等での親水護岸等の整備
- 水辺に近づけたり、水に触れることができる階段護岸、緩傾斜護岸等の採用の推進



整備した親水護岸の例

③イベントの開催

- 大阪湾の環境に対する理解を深めるための環境学習会、見学会、セミナー等の開催
- 親水空間を活用した各種イベントの開催



親水施設における
環境学習会の例



親水空間を活用したイベントの例

②親水緑地等の整備

- 湾奥部等での親水緑地等の整備



整備した親水緑地の例



市民参加による臨海部の緑地整備の例

④市民や企業の取り組みへの参画促進、 取り組みの支援

- 環境学習会の開催
- 情報発信
- 市民・NPO、企業、大学等の参加・連携による陸域・海域での各種環境改善活動、モニタリング等の推進



市民、NPO等の参加・連携による活動の例

豊かな「魚庭(なにわ)の海」

①藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備

- 増殖場(藻場)の整備
- 護岸の整備・改修時の緩傾斜護岸の採用 など



整備した藻場の例

緩傾斜護岸の例

②窪地の埋め戻し

- 窪地の埋め戻しの継続
- 効果的な埋め戻しの検討 など

③漁場整備

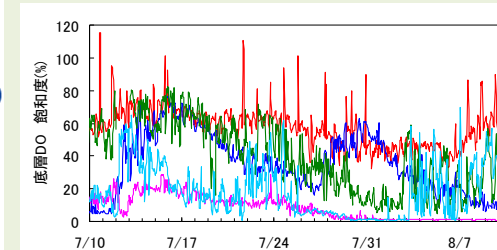
- 増殖場(藻場)の整備等による漁獲対象生物の生息・生育場の保全・創出

④モニタリングの充実

- 取り組みによる効果把握のためのモニタリングの実施
- 貧酸素水塊が問題となっている湾奥部等でのDO分布の把握
- 市民、NPO等の多様な主体の参加によるモニタリングの推進
- 大阪湾の環境情報の発信・共有化
- 産民官学の連携強化の推進 など



環境情報の発信・共有化の例
(大阪湾環境情報クリアリングハウス)



湾奥部における底層DOの連続観測例

⑤その他

- 里海創生の推進
- 海底耕耘による海底環境の改善
- 池干し(かいぼり)による浅場への栄養塩供給
- 下水処理場における栄養塩管理運転の試行

①多様な主体との連携

- 第一期計画で実施した「大阪湾Years 2012-2013」などの取り組み成果に基づき、森・川・里・都市・海等の循環やつながりの中で、教育分野や地域文化の醸成も含め、行政、学識者、市民、企業、漁業者、団体、NPOとの連携・活動の場づくりを一層推進する。
- 各構成機関による個別の計画と情報共有や連携を図る。

②取り組み状況のフォローアップ

- 行動計画期間中の毎年度、計画に基づく取り組みの進捗状況並びに目標の達成状況の**フォローアップを実施**する。
➡ ワーキンググループ会議等で確認、次年度以降の取り組みへのフィードバックを行う。
- 計画策定5年後を基本として「**中間評価**」を実施し、取り組み状況並びに目標達成状況について把握する。
➡ 必要に応じて計画の改訂等を実施し、効率的・効果的な取り組みの推進につなげる。

③行動計画の見直し

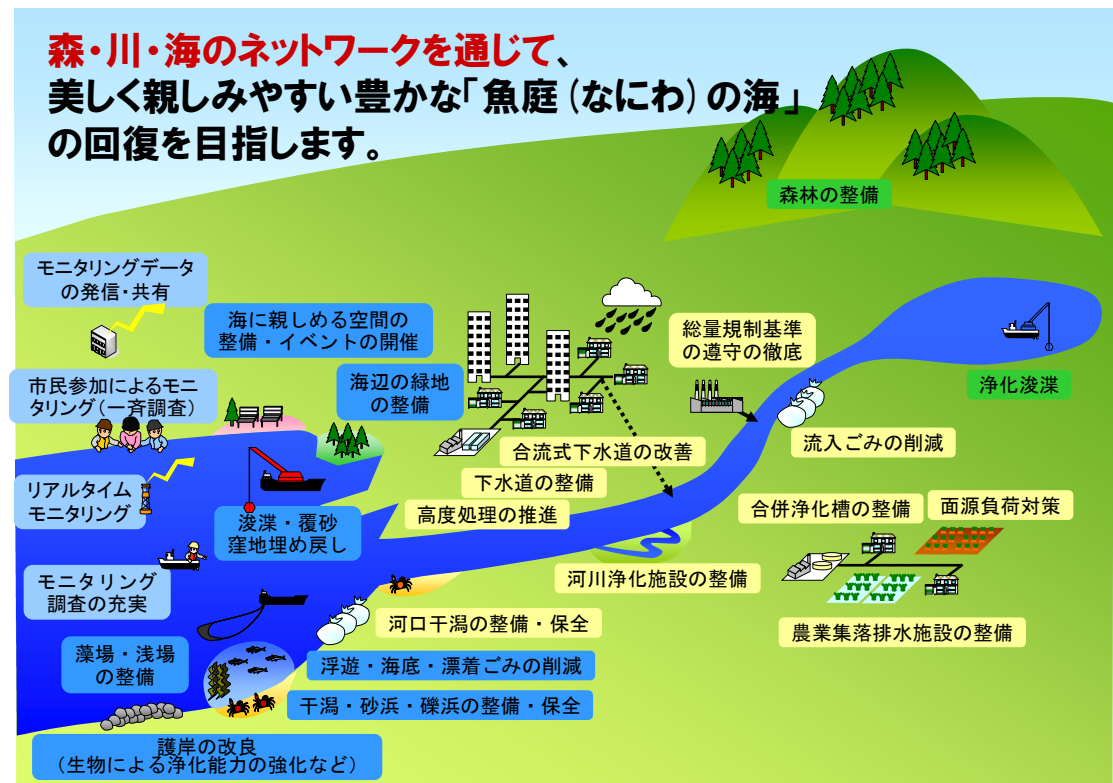
- 行動計画の見直しの必要性が生じた場合に、ワーキンググループ等で検討を行い、推進会議の承認を経て、行動計画の改訂版を策定する。
- 評価指標は、最新の研究成果等により、目標の評価に当たって新たな評価指標の適用が期待できる場合に、見直しを検討する。

平成26年度の重点的な取り組み

大阪湾再生行動計画(第二期)では、構成機関は各施策を着実に推進するとともに、より多くの市民に大阪湾の環境への関心と環境再生の取り組みを理解して頂く取り組みを進めることとし、平成26年度の重点的な取り組みとし、「学校教育との連携」に取り組む。

学校教育との連携

- 出前講座、施設・現場見学等の実施にあたって、各施策・取り組みが「大阪湾再生」に寄与していることを説明する
- 構成機関が実施した環境学習(出前講座、施設・現場見学等)の実施状況を把握。
- 具体的な数値目標の設定(回数)



➡ 森・川・海がつながり、循環していることを児童・生徒・学生に発信する